

公益財団法人 トヨタ財団 御中

2018年 11月 6日

トヨタ財団2017年度 国際助成プログラム
経過報告書

ふりがな	うえすぎ たかみち	生 年 月 日
代表者氏名	上杉 孝實	
所属機関名及び役職	基礎教育保障学会 会長	
所属機関住所	(〒 814 - 0180) 福岡県福岡市城南区七隈8丁目19の1 福岡大学人文学部 添田研究室付	(電話) [REDACTED] (FAX) [REDACTED]
自宅住所	[REDACTED]	(電話) [REDACTED] (FAX) [REDACTED]

企画題目
躍動するアジアにおける基礎教育保障のための共同探究ネットワークの構築

助成金額（助成金総額）	百万		千		円
	7	0	0	0	0

※次ページ以降、各項目の下に報告が収まらない場合は順次ページを増やしても構いません。または、様式に準じる形で報告書を作成してください（当ページは表書きとして添付してください）。

1. 企画概要（企画全体の目的がわかるように記述してください）

これまでアジアにおける基礎教育保障問題は、発展途上国の問題として認識されてきた。しかし、経済的発展を遂げ、学校教育制度が普及した日本や韓国のような国では、経済的事由や移民問題等により、基礎教育の機会から排除された人々の学び直し支援等、先進国特有の課題が浮上している。グローバル化の下で生じているこれらの課題の解決に向けては、国内に限られた情報だけでは展望が見出しづらい状況にあり、お互いの情報と交流を熱望している。

そこで、本プロジェクトは、日本の基礎教育保障学会と韓国の全国文解・基礎教育協議会（以下、全文協）の協力を軸に、基礎教育保障に関する政策、教材、スタッフの養成と研修に関する知見及び実践と研究と政策をつなぐ領域横断的な組織づくりのあり方を相互交流することを通じて、アジアにおける基礎教育保障の解決にむけた国際協同をめざす。2017年11月から2019年11月までに次の4つの事業を行う。

- ・国際シンポジウムや交流活動を日韓交互に開催する（学びあい交流事業）。
- ・優れた教材と教材開発の視座と方法を翻訳し、共有する。
- ・日韓両国の基礎教育保障の現状と課題をまとめたブックレットを作成し両言語で出版。
- ・「変化の記録」動画（日韓字幕付）を作成し、ネット配信を行う。

2. これまでの実施内容

（企画書の内容と照らし合わせ、変更点があればそれについても分かるように記述してください）

（1）進捗状況報告

①第2回学びあい交流会（2018年9月17日～20日 韓国ソウル）

昨年12月の大阪に続いて、第2回学びあい交流会を韓国・ソウルで実施した。日本から合計19名で訪韓した。来年3月の福岡での日韓基礎教育宣言づくりワークショップを見越して、「よみかき教室ふくおか」から学習者3名とスタッフ3名も参加してもらった。

韓国側のみなさんの丁寧かつ心のこもった準備のおかげで、教室訪問2ヶ所、日韓合同プロジェクト会議、実務会議、研究者や政府関係者も交えての合同学習会、学習発表会とたいへん充実した内容だった。学習者同士の交流もあり、「来年、福岡でお待ちしています」とお別れしたことは今後の展開に大きな意義をもつ。

右の写真は、全国文解・基礎教育協議会主催の学習発表会「識字ひろば2018～文解、わたしを踊らせる～」を見学した際の集合写真である。文解とは、識字のことだが、文化を読み解き、文化を解放するという意味が込められてる。年一度、韓国全土から識字教室が集う。日本からの訪問団は、その人数に驚き、発表に感動しっぱなしだった。



②各プロジェクトの進捗状況

学びあい交流事業は、前述したとおり第2回目を充実した内容で終わることができた。第3回（福岡）及び第4回（ソウル）にむけての日韓で協議しつつ、準備を進めている。

教材翻訳事業は、翻訳教材の選定を終え、翻訳に入っている。訳出後のレイアウト等についても日韓で調整を進めている。

ブックレット出版事業は、日本側のものは草稿が揃った段階にある。それをふまえて、日韓編集者会議を開催した。学習者の一日がわかる記述を加える等の改善点が確認された。日本版と韓国語版ともに2018年12月までの完成をめざし、その後、翻訳作業に入る。

「変化の記録」動画（日韓字幕付）は、日韓の担当方で方向性を共有した。韓国訪問の様子をまとめたテスト版を作成した。「よみかき教室ふくおか」で帰国後に開催された報告会のようにすをまとめた動画を作成し、韓国側と共有した。

本プロジェクト推進のために次の会合を行った。

日時・会場	会場	内容	備考
①2018年5月19日 10:00~12:30	法政大学 市ヶ谷キャンパス	第3回日本側プロジェクト会議。 11名が参加。	資料1
②2018年8月31日 18:00~20:30	首都大学東京 南大沢キャンパス	第4回日本側プロジェクト会議。 11名参加。	資料2
③2018年9月7日 19:00~20:30	よみかき教室ふくおか (福岡市立千代中学校)	よみかき教室からの参加者に対する 韓国訪問の説明会。	資料3
④2018年9月17日 10:00~12:00	Skypeでの会議	ブックレット事業の日韓編集会議	資料4
⑤2018年9月18日 16:00~18:30	仁寺洞テファラビル (韓国・ソウル)	第2回日韓合同プロジェクト会議 日本側19名、韓国側6名参加	資料5
⑥2018年11月4日 10:00~12:30	京都教育大学	第5回日本側プロジェクト会議 11名が参加。	資料6

(2) 計画からの変更点

プロジェクトの進展に伴い、次の2点の変更を行った。いずれも積極的な意味あいでの変更である。プロジェクト全体は順調に進んでいる。

一つ目の変更は、2018年9月に韓国で開催した第2回学びあい交流会に、「よみかき教室ふくおか」の学習者3名とスタッフ3名に同席してもらったことである。来春の第3回学びあい交流会（日本・福岡）をみすえて、事前交流を行うためである。

二つ目の変更は、本プロジェクトを研究面で並走する科学研究費を獲得したことである（基盤研究（C）研究代表：添田祥史「東アジア先進国における基礎教育保障モデル構築にむけた日韓比較研究」）。資金面での補充もさることながら、本プロジェクトの成果をきちんと分析し、発信する必要性を感じたからである。基礎教育保障学会、日本社会教育学会で中間報告を行った。

3. 現時点での成果・発見・感想など

日本側の発見としては、韓国の成人を対象とした初等教育レベルの学歴認定制度の内実ができたことが大きい。プロジェクトの進展により、これに取り組んでいる機関は民間によるものが多く、正規教員は少ない一方、学歴取得に向けての教科書が定められていて、教育形態としては一斉授業も多いことなど、現地訪問で詳細が明らかになってきた。

韓国側の発見としては、日本の成人基礎教育機関の数が少ないことや、夜間小学校がないことなどが、日本の特色としてとらえられている。日本では、正規の夜間中学校以外に自主夜間中学や識字・日本語教室が多く存在し、社会教育の範疇で扱われることや、自主教材が多く用いられていることなどが、韓国側にとって認識されつつある。

従来、法や制度面での双方の理解は進んでいても、その実態については、全体的にとらえられていない面があったが、この度のプロジェクトでは、日韓双方の全国組織が関わることによって、詳細な把握がなされるようになってきている。

4. 今後の展望について

(今後計画の変更を要する点があれば、それについてもお書きください)

これまでも、社会教育関係団体や夜間中学校などによる日韓交流の積み重ねはあったが、今回のプロジェクトで基礎教育に関わる日韓双方の全国組織が共同で交流・研究を行うことが可能となり、それによって、基礎教育保障の仕組みや教育内容・方法の研究が進み、実践に役立てることができる。その際、当事者である学習者の参画が重要となる。



成人基礎教育においては、義務教育段階修了に相当する力の取得を保障することが課題であり、そのために韓国ではかなり体系的に教育内容が考えられていた。成人としての学習者は人生経験も豊富であり、これまでも識字教室などで展開されてきたように、教育の過程のみならず教育機関の運営にあたってその主体性を重視することや、生活や教育を規定してきた社会の把握に力を注ぐことが重要になる。

この点で、単に既成の学校をモデルにするのではなく、新たな教育創造が試みられなければならない。フォーマルな教育のみならずノンフォーマルな教育に注目する必要がある。これらについての研究を深めることが、実践上の課題であることが認識されてきている。ノンフォーマルな教育に着目するとき、他のアジア諸国での実践が参考になることも多く、それらの国々との交流の機会を多くすることにも努めたい。